

OB 会報

湘南サッカー部 OB 会報 第 28 号

湘南〈私語〉ノート

昭和 48 年卒 鈴木啓介

「ご存じですか？岩波新書の現代〈死語〉ノート。昔の流行語集（1956―1976年）です。例えば昭和47（1972）年には、『ナウ・死語中の死語。Nowであるがナウな』となると何とも恥ずかしい」といった具合です。書式を拝借し、湘南のグラウンドで走った40年前（！）の『私語』を並べます。

●ウラチュー：藤沢一中のこと。旧体育館（東洋一）、プール（漏電）のウラにあった。ちなみに小生は創立十周年の松浪中学出身。ピカピカの諸先輩（加納、上野、溝口、小林、敬称略）と比べ、中学高校ともに肩身の狭い谷間世代。中学では小柴（元日本代表、現県鎌監督）と同級でした。

●全国制覇も夢ではない：新一年生メンバーへの鈴木中監督のお言葉。後に恒例だったと分るが、15才達はそれなりにトキめいた。ソノ気にさせるには、ここまで誇張！との人生訓？

●サッカー最中：藤枝遠征、和菓子屋店頭の手紙。『さすが藤枝、試合日は開店休業？』と感心するも、やはりモナカと読むと判明。

●体教：パソコンで体協、胎教など出ることが、当時グラウンド右手にあった体育教官室のこと。聖域。現代ではあり得ないが、生徒の相関図が黒板に？

●槍が降ったら止めてやる：夏合宿、『サッカーは雨が降ってもヤリが降ってもやる』に続く、中さんのお言葉。翌朝、陸上部の槍がグラウンドの片隅にひそかにささっていたけれど（誰？）、無論、何の効力があるはずもなく。

●石灰ボール：夜間練習でボール（含ペンデルボール）を『可視化』する先端技術。メリケン粉ならぬ消石灰（！）をまぶす。よく誰も失明しなかったね！

●水分補給禁止：夏練習の合言葉。合宿の夕食では、同級生安保君のお父上（大先輩）差し入れのスイカがマブしかった。

●メキシコ五輪：68年、サッカーブームの起爆剤。釜本、杉山以外もロングスローの小城など個性派ぞろい。一方、世界では70年メキシコW杯。ペレ、ベッケンバウアー。。

●ダイヤモンドサッカー：岡野さん、金子アナの名コンビによる東京12チャンネルの番組。抛り込んで勝負！のイングランドスタイル。

●WM、4・2・4：当時のシステム。消滅に伴い、センターフォワード、インナー、ウイング、スリーパー等が死語に。

●月に向かつて：ともかく遠くに蹴り出せ。コーナーフラッグへ、等はまだ建設的。

●ファイブステップ：ボールを持つキーパー

1の歩数制限、逆にバックパスは自由だった。毎夏、松浪中学で現役がオジさんと遊んでくれる会で、このルールで世代間断絶が！中学生審判の温情で不問に。失笑。

●三ツ沢：日本リーグ（死語）、万年最下位日本鋼管の本拠地だが、観客は常に相手を応援。タダ見できる正面のアパートに住みたい等と言っていました。西独のHSVが来日、170cmの闘将ウベ・ゼーラーのツルツと滑る頭での得点シーンが蘇る（昨日の夕食は思い出せないが）。

●打ち込み式、ねじ込み式：相手をケズる（死語？）凶器の固定法。バンコク（ヤスダ？）等、釘を用いた野蛮な方式は消滅寸前。しかし新方式も初期不良、むしろ履いた本人の足裏に食い込む（痛つ）！西独製スパイクが輸入され、ネットアーはブーマ、オペラートはアデイダスでした（両雄並び立たず）。バッグも空色の手提げからエセ西独製へ。

●ピフテキ：スライディングによる産物の品評会。土石グラウンドに特有。E学園戦に勝利後のご挨拶、ドイツ人監督の『ツチのグラウンドにヤラレマシタ』に、皆激怒？そういえば来日した英国チームが、国立の芝は小学校の校庭以下、と酷評したものこの頃。戯れ言、ご容赦。来年、ドイツでのサッカー観戦楽しみです。

「鈴木氏プロフィールを編集後記にてご紹介しております。」

。ペガサス70活動報告

昭27年卒 山本 修

湘南ペガサス70チームは、昨年に引き続き以下の行事に参加した。

今年は、怪我や病気の故障者続出で、遠征のつど人数不足。県内各チームから数名の応援を得て参加した。今後、新メンバー補充が必要と考えられる。

一、70才以上大会の一泊遠征
以下の4大会に一泊遠征し、7勝4分1敗の好成績であった。参加チームの多くが県選抜や地域連合で構成されている中で、単独クラブの湘南ペガサス70は珍しい存在である。

東日本ロイヤルエイジ 那須5/7・8
全国シニア大会 広島5/30・31
刈谷スーパージェイ 刈谷9/12・13
福井ロイヤルエイジ 三国町9/27・28

二、その他の70才以上行事

神奈川シニアリーグ 平塚 4月〜10月
湘南ペガサス・神奈川東部連合・西部連合の3チームが参加して、2回総当たりの70リーグが開始され、湘南ペガサスが

2勝2分で優勝した。
このほか、70チームとして、以下の行事に参加した

Gリーグ 埼玉 深谷 4/5
埼玉ロイヤル交流会 古河 4/10
Gリーグ 栃木 那須 7/5
FUS 交流会 仙川 11/23

三、ロイヤルサッカー東西対抗戦

国立競技場のロイヤルサッカー東西対抗戦、今年は3年目、2回開催され、全国から70才以上が集まり年令層別の紅白試合を楽しんだ。湘南OB・湘南ペガサスから延べ15人が参加した。

1/17 70〜80才 150人参加 5試合
8/23 75以上優先 58人参加 2試合

四、県協会シニア交流会

県協会主催のシニア交流会は、原則70才以上、68才以上許容として、火曜または水曜の月4回、平塚馬人人工芝グラウンドで開催されている。

60雀リーグ参加8チームから、湘南ペガサスは単独チーム編成、他の7チームからの参加者は、小田原・茅ヶ崎えびし・赤羽根・平塚連合、横浜・YK・神奈川連合の連合2チームを編成して対戦した。

4/22 埼玉・東大LB、10/20 清水、10

／27 東京、11/25 東大LBが、ビジターとして交流会に参加した。

五、その他の高令者対象の行事

高令者対象の行事がいろいろな年令制限で開催され、湘南ペガサスは以下の行事に参加した。

第6回清水大会 67才以上 3/20〜22
Gリーグ千葉 市原 69才以上 4/26
関東シニア大会熊谷 69才以上 10/12
シニアフェスタ善行 69才以上 11/21
清水招待 清水 67才以上 12/17

。ペガサス60活動報告

(平成21年度)

ペガサス60代表
昭38年卒 長谷川十九治

平成21年度の登録部員は60歳から69歳までの27名です。うち65歳以上が13名、65歳未満が14名、ほかにペガサスシニアBから本年度中に60歳になった加納、北原の応援を得て戦っています。27名中16名が湘南高校出身者です。従って多いときには20名近くが試合に参加しますの宮杉監督は毎回先発選手と交代選手は丁度60歳の加納、北原、木幡、61歳の

田部井、阿部、坪井の若手陣(?)にテクニシャンの牧村、走力では負けない宮杉が揃えば強力布陣となります。このように昨年に比べメンバーも増強されたので、今年は数多くの試合を消化してきました。

活動の中心は神奈川シニアリーグ(全8チーム)、全国シニア予選神奈川リーグ(全4チーム)の二つのリーグ戦です。昨年3位だった神奈川シニアリーグは10月24日現在10試合消化して7勝1敗1分勝ち点22で2位につけています。トップ茅ヶ崎FCえびしとは勝ち点1の差です。残り4試合のうち、えびしとの直接対決が2試合残っていますのでこれに勝って優勝を決めるつもりです。ご期待下さい。全国シニア神奈川リーグは残念ながら、えびし、YKの後塵を拝し2勝3敗1分で3位に終わり関東予選への出場権を逃してしまいました。

両リーグ通算の勝敗は9勝4敗2分とまずまずの結果を残しています。そのほかにも関東Gリーグ(GII)の(深谷、千葉、茨城、熊谷)の各大会に参加しました。強豪埼玉さくらに加え、千葉や茨城が往年の実業団チーム中心の編成で登場してくるので、8試合中4敗4分で不本意な結果となってしまいました。今後のスケジュールとしては昨年2位

に入賞した「武田の里華崎サッカーフェスティバル」、「清水スーパースoccer」の招待試合、「神奈川スポーツフェスタ」「筑波大付属、神戸、湘南（略称FKSサッカー）」の対抗戦などの試合が組まれており、これらを合わせると試合数としては年間40試合ほど戦っていることとなります。各試合の寸評は広報担当の折原が湘南ペガサスのホームページに克明に記録していますので、読者の皆様是非ご一読下さい。

さて60歳を越えたメンバーのプレーはどんなものでしょう。まず体力の衰えはどうにもなりません。特に走力に大きな違いが出ます。前述の宮杉選手は30Mのダッシュで相手を5M引き離しますが多くの選手は「年寄り走り」になってしまいました。コーナーキックをゴールポストまで飛ばせる選手も少なくなっています。また年に応じて生ずる病との闘いも克服しなければなりません。かなりのメンバーが腰痛、前立腺癌、心臓疾患などに打ち勝ちプレーしています。そしてサッカーを続けることで健康を維持し、また気力も充実させています。湘南高校ではサッカー部に在籍しながら現在プレーしていない、35回生から44回生の皆さん、ペガサス60と一緒にプレーしませんか？

ご連絡お待ちします。

ペガサスシニアB報告

昭45年卒 横山 雅行

平成21年度はシニアA他から7名の新メンバーが加入し、かなりの戦力アップが望め昨年の5位以上の成績を収められるのではとシーズンに臨んだ。しかし他チームの若返りも進んだせいか、県五十雀リーグ50雀2部において現在（10月25日）0勝5分6敗14チーム中13位と低迷している。

調子に乗れないまま夏までの前期が過ぎていった感じで、後期に入り勝ちきれないが内容的にはいい試合が出来てきている。まだ2試合残っているので少しでも上を目指し頑張りたい。

4月4日 西湘 0対2 前半の優勢を生かしきれず、後半走り負け

4月11日 ウェスト 0対0 互いに決め手を欠きドロー

4月18日 浅野藤沢 1対1 加納さんの先制点、カウンターで痛恨の失点

5月16日 足柄上 0対3 受身の時DFラインが下がり過ぎ中盤が空い

た

6月20日 グランパ 0対2 DFとGKのコンビネーション不良の隙を突かれる

7月11日 早園 0対0 守備は完璧に抑えたが得点できず

7月25日 赤羽根 0対5 相性のいいはずの相手に訳の分らないまま

9月12日 秦野 0対1 五分の戦い、相手のラッキーゴール1本で惜敗

9月19日 栄光 1対1 久々の得点。一瞬の隙を突かれ追いつかれる

10月3日 多摩 1対2 前半2失点も後半猛攻。惜しくも追いつけず

10月17日 綾瀬 0対0 新設の人工芝に馴染めずシュートが枠に飛ばず

昨年度2失点以上は2試合だったが今年度はすでに5試合を数える。また無得点試合も昨年の6試合から8試合と増えてしまった。毎年の課題ではあるが得点力不足に今年は特に悩まされた感がある。

他の公式戦では全国シニア予選リーグが行われている。0対1ボロンズ・0対4西湘と前半は不調だったが、夏以降0対0平塚・2対2多摩・0対0赤羽根と好勝負を展開している。12月上旬から県議長杯トーナメントも開催されるがようやく調子が上向いてきた感があるのでリーグ戦の雪辱を期している。

今シーズンの不振はひとえに得点の不足に他ならないが、その原因が何かは正直なところ分らない。得点チャンスも無く一方的に攻められてばかりいるわけでもない。しいて言えば繋ぐことに気を取られすぎ、シュートタイミングを逃しているのかもしれない。

今年度前半はシニアBの信条である「サッカーを楽しむ」ことも忘れがちであったが、新メンバーとの連携も落ち着いてきた夏以降、ようやく「楽しむ」余裕が出てきた。今後は来期に向け「楽しんで上で勝つ試合」を目指しシーズンを締めくくりたい。

ペガサスシニアA

2009を振り返って

シニアA代表
昭46年卒 森 秀樹

ついこの間まで暑い日々が続いていたのに、朝晩は秋の気配を感じる今日この頃です。OB諸氏におかれましては、ますますお元気にボールを蹴っておられると拝察いたします。あつという間に年間活動報告を書く時期になりました。

今期のシニアAはこれまでのところ好成績を残しています。

(1) 神奈川県シニアリーグ戦績

神奈川県シニア1部リーグでは最終戦を残した段階で、6勝3敗1分け勝点19で2位につけています。残念ながら全勝の横須賀に追いつくことは出来ませんが、最終戦には是非勝って今季2位を確保したいところです。また、得点20はリーグトップの成績です。

(2) 全国シニア予選戦績

全国シニア予選も現在のところ3勝2分で、Bブロックで神奈川県ドリームについて2位。残り2試合は強敵との対戦になりますが、この2試合に勝てばブロック優勝も夢では有りません。

(3) チーム状況

ゴールキーパーは野口、バックラインは、スイーパーに森、センターバック滝澤、サイドバックに吉田と小泉という基本形に、水野、田村、英、竹本等若手が加わってさらに安定しました。中盤は、関、上田、阿波に、今年からトップ下に二見が加入。さらに、越智、八木等若手が加入して豊富な運動量で相手を圧倒。フォワードは昨年からの得点源となっている石川、吉田（京）を軸に元松、川本、五代、加賀山、小石等が持ち味を出して得点に絡みました。対戦相手からは、ペガサスさんは走りますね！と言われます。ずっと理想として掲げてきた「ボールを奪われた瞬間から守備に入り、徹底

的に相手を追い詰めてボールを奪い返す。」が出来ようになりました。フォワードと中盤選手の守備での奮闘が高く評価されます。バックラインは年間を通じて安定した組織的な守備を見せています。攻撃ではフォワードが相手バックの裏側に飛び込むタイミングに合わせてスルーパスを入れるというパターンが出来ました、サイドバックが攻撃に参加して

ゴール前にクロスボールを上げるという形も見られるようになりました。今後は、タッチライン沿いに相手陣内へ深く切り込みセンターリングしたボールへ飛び込む。短い壁パスをつないで相手バックラインを突破するなど攻撃にバラエティーを持てるようにしたいと思います。

(4) 嬉しい悩み

今期は試合参加者が多く、ほとんどのメンバーが前半か後半のみのプレーとなってしまうケースが多く見られました。監督としては、グラウンドにきた全員が試合に出て、しかも試合に勝つためにはどうすべきかという嬉しい悩みを抱えています。

グラウンドで走り回れる幸せを感じながら、これからの攻撃的で楽しいサッカーを続けていきたいと思っています。

湘南ペガサスジュニア
09年活動報告

シニアサッカーを

楽しみながら試合に勝つ！

昭和53年卒 田中 聡

09年度、湘南ペガサスジュニアチームは30名が登録、うち約半数の14名が湘南高校サッカー部OBでした。平均年齢は47歳と積年の課題である高齢化は否めませんが、今シーズンからは62、63回生のOBを含む40代前半の3名が加入して、すぐに中心戦力として活躍してくれました。

ジュニアは現在、神奈川県シニアサッカーリーグ四十雀（1部から4部まで）の3部に所属し、09年度はリーグ戦12試合を戦いました。今シーズンは、昨年まで監督を務められた志水さん（52回）の後継ぎ、不肖私が生涯初めての監督に就任しました。私は、40歳になった直後から四十雀に参加させていただき今シーズンで10シーズン目となり、シニアでのキャリアは十分ですが、諸先輩方・後輩諸氏に比べて現役時代の活躍がなく、カリスマ性が全くないことが不安でした。しかし、湘南サッカーを愛することにかけては誰にもひけをとらないと自負しております。シニアサッカーを楽しむことと、

試合に勝つことを高い次元で融合させることを基本コンセプトに、参加者全員出場を大前提とし、前半は堅い守備からスタートし、後半に若い力を投入してゲームを支配して勝つという戦術を掲げてスタートしました。

序盤戦は、とても好調で開幕3試合を2勝1分、この段階で2部昇格を目標とすることを明言しました。しかし、内容は攻撃力・得点力はあるものの肝心の守備が不安定で、目指す湘南サッカーの戦術とはかけ離れたものでした。スタメンはベテラン、後半には若手というメンバー起用をしましたが、攻撃陣はベテランが主力、守備陣は若手がいいというチーム構成になっていたための誤算でした。中盤戦は、3連敗を含む1勝4敗と負け越して夏休みに入りました。

夏休み中に、今年はチーム代表として、総監督的な立場から未熟な新監督に多くの貴重な助言をくださいました志水さんがカナダへ転勤となり、ますます不安が大きくなりました。そこで終盤戦は、志水さんをはじめ諸先輩方からの助言を取り入れて、少しメンバー起用法を変えて、2勝2敗で乗り切り、最終成績5勝6敗1分、13チーム中7位という成績でリーグ戦を終えました。

今季は、登録30人中28人の方にご参加いただき、毎試合16〜22人、平均

17・8人と、たくさんの方にお集まりいただき、監督としては毎試合メンバー構成に頭を悩ませました。この場を借りて、未熟な監督に文句ひとつ言わず協力いただいている皆様に、心より感謝致したいと思います。来シーズンは、遂に全国大会ベスト16、栄光の64回生を含むOB5人以上が参戦するとの情報が入っています。それらの新戦力を加え、来季こそ2部昇格を成し遂げたいと思います。また、再来年あたりにはジュニアも40人を越える大所帯ともなれば、念願のA、B2チーム制が取れるのではないかと期待しております。そうならば、自分もですが、土曜日が仕事の50歳以上の皆様にも再びシニアサッカーを楽しんでいただけたと思います。何卒、今後ともよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

再挑戦

トトカルチヨ湘南

平17年卒 橋本 諭

自分が昨年このOB会報を書いて早いこと1年が経ちました。昨年の神奈川県社会人リーグの結果から報告させて頂

くと、昨年自分たちが掲げた県リーグ2部昇格と言う目標を達成することが出来ませんでした。リーグでは全試合を勝利し、ブロック1位、昇格トーナメントには出場することが出来ました。しかし、そのトーナメントでは2回戦で敗れてしまい2部に昇格することが出来ませんでした。1年間のリーグの結果が全勝と良い流れで来ていたので、負けた時は非常に残念でなりません。これでまだ振り出し、1年間またリーグで戦い、2部昇格トーナメントの出場権を得るために上位2チームに入らなければなりません。

シーズン後、皆で集まり話し合いをしたところ、反省点として一番大きかったのはコミュニケーション不足・信頼関係の無さといったことでした。もちろん技術的に相手チームに劣っている部分もありましたが、それ以上に感じるものがありました。試合中、個人技術で突破は出来ても、相手とイメージを共有していないために次にパスが出ない。パスを出したいのに、どこで相手が欲しいのかわからない。パスを出しても相手がいない。最終戦の試合終了に近づくにつれ、浮き彫りになってしまいました。リーグで何となく勝ててしまつて、自覚が無いうちに3部リーグのサッカーに満足してしまつていたのだと思います。

今年の目標はもちろん2部昇格です。昨年の反省点である、コミュニケーション不足を解消するために、週1回土曜、もしくは日曜日の早朝に欠かさず練習をすることになりました。やはり練習をするに、個々の技術・コミュニケーションにも良くなつていくと感じています。

今年の戦績は全勝とは行きませんが4勝1敗1分であと1試合を勝てばトーナメントに行くことができます。今年は再挑戦の年です。昨年達成できなかった目標を達成できるよう、気を抜かず頑張つていこうと思います。

自分がトトカルチヨに入つて早5年が経ちました。この間で高校サッカーと社会人サッカーチームの運営の難しさをとでも感じました。高校時代との大きな違いは、大学生・社会人がメンバーのチームなので、サッカーを第一に考えることがなかなか出来ない、ということだと思っています。大学では勉強・アルバイトや、大学の友人とも交流をしなければいけません。将来の自分の道を明確に見つける為にいろいろな事に挑戦できる時期なので、サッカーだけというわけにはなかなか行かない。社会人の方となれば、毎日朝早くから夜遅くまで仕事と、サッカーをする暇はともかく、考える暇さえありません。しかし、サッカーをやっている以上、常に向上心を持続けたチームにし

たいと思います。そのためにはそのような忙しい日々の中でも、出来るだけ、サッカーに割ける時間を増やす努力をしていく必要があります。

個人個人が上へ上へ目指す努力をし、サッカーの技術はもちろんのこと、精神的にも、体力的にも、強くなり、人間的にも成長出来る良いチームになつていければよいと思っています。



親子でサッカー部

昭和46年卒

榎原（阿部）和久

平成19年（2007）3月1日、長男の和洋が湘南高校に合格。早速、恩師の鈴木中先生に連絡を取ったところ、3月10日（土）に湘南のグラウンドに息子を連れて来いとの事。10日、希望に胸をふくらませた息子と一緒に午前9時前に、湘南のグラウンドに出かけました。中先生は体育教員室にすでに来ておられ、当日は、湘南ベルマーレのトレーナーの野明さんが、サッカー部の練習を見て下さる日であつたので、一緒にトレーニングに参加させてもらいました。これが、息子の湘南サッカー部体験第1日で、高校サッカー生活のスタートとなりました。夕方6時頃、息子がニコニコして「楽しかった！」と話してくれたのがとても印象に残っています。当時の湘南サッカー部の監督は、清水先生。豪快な印象の方でしたが、守備をととても大切にされている指導者で、藤沢西高校に在職時されている時には、全国大会にチームを連れて行かれています。その全国大会出場チームの中心選手が、和洋の幼稚園、小学校時代

のサッカーチーム（横浜YMCA）の指導者で、不思議な縁を感じました。

この年の県立高校入試から、学区制が廃止されたので、神奈川県下から『文武両道』の志を強く持った中学生が湘南サッカー部に多く入部して来しました。和洋は良き友達に恵まれ、充実した高校サッカー生活を送ることができ、とても幸せであつたと思います。高校3年の選手権二次予選まで、一緒にサッカーをした10人の同期の中には、責任感が大変強く、素晴らしいリーダーシップを発揮してくれた土屋太皓君（主将）、横浜マリノスJユース（新子安）のキャプテンを務めていた、サッカーの基礎技術がしっかりしていた大川雅士君、湘南サッカー部に在籍中に練習試合も含めると1000点近いゴールを上げ、神奈川県国体チームに選抜されたCFの瓜谷翔太君などが居て、公式戦の応援に行っても、大いに期待を感じ、楽しませてもらったなあと感じています。

4月に入学式を済ませ、正式に湘南サッカー部の一員になってから、関東大会予選、インター杯予選、高校選手権予選、U・17リーグ戦、新人戦と、数多くの公式戦に和洋は、1年生から出場させていただきました。これは、親の私が中先生から教わったサッカーを、息子にある程度伝えることができたからかな？

と思っています。和洋が歩くようになると、スポンジにタオル地をまいたサッカーボールを買ってやり、家の中で遊んだものでした。1996年のアトラントオリンピックでは、準優勝したアルゼンチンの試合を、決勝戦が行われた『Sanfordスタジアム』で一緒に観戦し、C・ロペスや、オルテガのプレーの素晴らしさを見せ、世界的な大会の雰囲気を感じさせました。

息子が公式戦に出場するようになると、試合会場で中先生に良くお会いするようになり、湘南サッカー部の遠征、合宿に中先生の鞆持ちでついて行かせていただくことも多くなりました。2、3年生の夏合宿で富士山麓の時の栖、3年生の4月の千葉八千代カップ、試合の終わった夜、中先生、2年から監督になられた小林先生、コーチをして下さっている篠塚君と夕食を取りながらサッカー談義をするのは、とても楽しい時間でした。

和洋にとつて湘南サッカー部の活動で一番楽しかったのは、やはり『スペイン遠征』であつたと思います。世界基準のサッカーを体験し、その道で一流になるには、何が重要で、日々どのような生活をすれば良いのか、少しは分かったのではないかと思います。親の目で見て、ここで頑張らなければいけない！という場面で、怪我をしたり、体調を崩したり

という事が、多々ありました。これからの人生、どんなに忙しくても、体調が悪くても、『最後の帳尻』を合わさなければいけないのが大人の社会です。湘南サッカー部で生涯の良き友を数多く得ることができたので、それを大いなる財産として、体に気をつけて、今後の人生をより多いものにして欲しいと思います。

それにしても、親子で湘南サッカー部にお世話になり、得難い経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。鈴木中先生、小林先生、清水先生の毎日のご指導に感謝し、これからも、息子へのご指導・アドバイスを宜しくお願いします。また、湘南サッカー部が近い将来、高校選手権に出場することを祈念し、その時には盛大にお祝いしたいと切望しています。

親子で湘南サッカー

世界へ羽ばたく若者達へ

昭和55年卒

川添真一郎

中学卒業まで、サッカーを部活動や地域のクラブなどでやっていなかった息子が、湘南高校入学と同時にサッカー部への入部希望を口にした時、どのようにア

ドバイスをすればよいか正直迷った時期がありました。近年の少年サッカーからＪリーグに至るまで、私が32年前に湘南高校でサッカー部に入部した時とは大きくサッカーを取り巻く状況が異なる中で、本格的なサッカー活動にどこまで真剣に向き合えるのか親としても不安を感じてのスタートでありました。入部同期は30名を超え、2年・3年生も入れると50名を超える大所帯でのサッカー部生活が始まりました。案の定、慣れない練習や体力トレーニングの中、怪我をして思うようにプレーできなかつたり、多くの1年生と一緒に裏方に回って試合会場の設営やグラウンド整備なども大変だった様子が窺えました。

その息子が、20名を超える同期とともに3年生の高校総体までチームの一員として部活動を継続し、自分としてチームに貢献できる役割を見つけて、最後までチームワークの中でひとつの目標に向かうことができたことは、彼にとつて湘南高校で得た最高の経験でありました。

湘南高校サッカー部は、定期的にスペイン遠征を実施してきており、ほとんどの生徒が大変に恵まれた貴重な経験をさせてもらっています。その遠征中、チームのメンバーを代表して対戦相手のチームとの交歓会の司会や双方のコミュニケーションを図ることをしたりと大活躍

をしてくれましたと顧問の先生や校長先生から聞かされ、親として大変心強い思いを抱いたことを覚えています。スポーツが国境を越えた異国間の交流や引いては、お互いの言葉を越えた理解をもたらすものであることは論を待ちませんが、一歩進めて互いが文化や背景などの違いを認識しながらも、互いに理解しあうためには、まさに自分が一歩前に出ていく強さが必要であり、図らずも彼が高校サッカー部の国際交流の場面でこれを実行してくれたことは、少なからずその場において日本やスペインの若きサッカープレイヤーにも何がしかのメッセージとして伝わったのではないかと一人合点をしたものでした。

自分自身のサッカーとの付き合いは、プレイするものより、観戦する方がもつぱらという状況で、湘南サッカー部OBとしては少々なさけない限りですが、やはり体が資本ということが身にしみる世代にもなつたので、少しエンジンをかけてみてもよいかと感じている昨今です。現在の仕事が、三菱航空機という新しい会社で航空機の開発・設計・販売の立ち上げをやっている関係で欧州から北米・中南米・アフリカ・アジアと垣根なく世界中との付き合いをしています。やはりサッカーというスポーツの広がりには他のスポーツを圧倒するものがある

り、仕事の局面でも意外なつながりに発展することもあります。

湘南高校サッカー部を巣立っていく諸君には、是非胸を張り、前を向いて未来を切り開く気概で大学や社会での活躍をしてもらいたいと祈念しています。

40でサッカー再始動

昭和62年卒 田中 敦

今年度から、ペガサスジュニアの新人として、四十雀リーグに参戦している62年卒の田中敦です。湘南高校を卒業して大学時代は「湘南クラブ」で、社会人になつてからは会社のサッカー部での活動を中心に、一時期（30〜35歳の頃）「トカルチョ湘南」でプレーをして、サッカーを続けてきました。

私が「トカルチョ湘南」でプレーしていた頃は県2部だったので、34歳頃からそのレベルでプレーすることが厳しくなり、その後は会社のサッカー部（鎌倉市リーグ）で何とか現役とのプレーを続けてきました。が、それもさすがに40歳に近づくとき厳しくなり、「さて、どうしたものか」と考えた時にちょうど関さん

からお誘いを受け、「ペガサスジュニア（四十雀）」でお世話になるようになりました。

現役時代にお世話になった懐かしい諸先輩方と再会し、ごく自然にチームに溶け込むことができました。やっぱり湘南サッカーは楽しいな、と実感しました。

がっかりした面もあります。湘南サッカー純血ではないことです。特に私の上の代は、61年卒がゼロで、60年卒に武井さんが一人。私が現役時代に一緒にプレイした先輩が一人だけ、とは寂しいです。

ペガサスジュニアの長い歴史の中で、試合メンバーを揃えるために純血を破らなければならなかった事情等もお聞きしました。そのことを否定する必要はないと考えますが、これから少しずつ湘南の血を増やしていきたい、と考えています。そのためには、62年卒前後の加入が一番の処方箋です。これまでサッカーを続けてきた人も、そうでない人も、40歳はひとつの区切りとなり、サッカーを再始動するいい機会です。是非、もう一回集まって、湘南のサッカーをやりたいでしょう。

リーグ期間は、だいたい4月〜10月くらいで、11試合くらいを消化します。試合は日曜日です。平均すると月に1.5回程度で、仕事や家族のことと両立するには、ちょうどよいボリュームです。試合会場は、横浜〜足柄の間くらいがメインにな

ります。一度箱根で試合がありました。若いころだったら、その距離に不平を言ったかも知れませんが、のんびり箱根登山鉄道に揺れながら行って、帰りは箱根湯元で温泉に入り、ビール！最高でした。40歳過ぎるとこんな楽しみもできるもんだなあ、少し余裕を持てるようになった（？）自分を発見しました。

現役報告

主将 石川恭一郎

このたび、主将となりました石川 恭一郎です。OBの皆様の心強いご支援の元、日々充実した練習ができることを大変幸せに思っています。その幸せを力に変え、チームを引っ張り、神奈川のトップを目指してやっていきます。よろしく願っています。

9月13日の選手権二次予選 対日大藤沢戦、そして9月27日のU・18 対西湘戦で3年生が引退して、新しい湘南サッカー部が始動しました。昨年から、「サッカーを通して、1人の人間として大切な『社会性』を養う」という小林先生の指導の元、日々全員で考え、話し

合いながら練習に取り組んでいます。今の時期は「サッカーでは技術、強さ、速さが必要であり、それらの三角形をどれだけ大きくできるか」という指針で個人を高める練習を行い、11月の新人戦での優勝を狙って練習をしています。

ところで、私たち2年生の新チームは昨年のチームと比べ、1人で局面を打開出来るほどの高い技術や身体能力を持っているわけではなく、チームの核となるような選手が見当たりません。ですが、得点を取る人、最後に体を張って守る人、人が決まっていなくて今のチームの強みでもあると思います。個人での最低限の仕事はやつた上で、チーム全体で力を合わせて試合に臨めば良い結果が出ると思います。サッカーを通してそういう仲間との協力や信頼を大事にすることを学び、それを学校生活などに生かしてたくさんの方に応援されるような部活でありたいと思っています。

11月中旬から新人戦が始まりますが、どの大会でもOBの皆様が喜んでもらえるような良い結果をご報告できますよう、精進して参りますので今後とも変わらぬ応援をよろしく願っています。

報告

監督 小林周太郎

日頃よりOBの皆様には多大なるご支援をいただきまして、大変感謝いたしております。今年度は、1年生の時から中心として活躍してきた選手が多くいる学年が3年生となり、本気で代表を目指して取り組んできましたが、ベスト16に壁があり、狙った結果を手になく選手権の予選までが終わり、3年生は受験モードへ、1・2年生は新人戦に向けてスタートをしたところです。手にさせられたであろう結果を持つてこれなかった責任を感じております。なんとか力をつけてチャンスをつくり、つかむチームにしていきたいと思っています。さて、活動の目標は、サッカーを通して社会の中心となつて活躍する人間性を磨くことです。それが、それと並行して、質の高いサッカーを身につけることも重要だと考えています。どう勝ち、勝ち続けるのか、勝者のメンタリティーを持つことは大切。プラス思考・感謝の心・謙虚な姿勢・仲間との大切さ・責任感を身につけてほしいと思います。

また、今度の3月にイングランド・ス페인遠征を実施いたします。今回より学校が主催の国際交流事業となりますが、前回までの遠征と同様に、OB会の全面的な支援がなければ実施ができない状況であることには変わりはありません。勝手なお願いになってしまいい大変申し訳ございませんが、多方面よりの支援をいただけたら幸いです。

今年度の戦績は次の通りです。今後ともご支援よろしく願っています。

今年度 試合結果

関東大会二次予選		
二回戦 対 山手学院		1対0
三回戦 対 保土ヶ谷		2対0
四回戦 対 座間		1対2
インターハイ予選		
二回戦 対 サレジオ学院		2対0
三回戦 対 藤沢翔陵		6対0
四回戦 対 新羽		4対0
ブロック決勝 対 湘南学院		
	5対5	PK勝ち
インターハイ二次予選		
一回戦 対 湘南工科大学		1対2
選手権一次予選		
二回戦 対 平塚学園		3対0
三回戦 対 横浜		3対0
ブロック決勝 対 菅		5対1

選手権二次予選

一回戦 対 日大藤沢 0対2

新人戦県大会出場(地区予選免除)

ご挨拶

湘南高校教諭 大東洋樹

はじめまして、今年の4月からサッカー部の顧問となりました大東(おおひがし)です。

プレー経験はありませんが、観るほうでは、ワールドカップの時期は真夜中のTV観戦に明け暮れ、サッカー雑誌を四半世紀読み続けるサッカー好きです。

それでも、この半年間は、驚きの経験の連続でした。緊張状態が続くPK戦、妥協を許さない闘志あふれる合宿、良い内容でも結果には結びつかない非情な現実、様々なシーンを見せられました。人生で一度の高校生活で精一杯プレーする生徒たちの姿に、ただただ感動することばかりでした。

ぎりぎりの勝負の中では、選手達の力だけではなく、それを取りまく様々な力が、勝利を後押しするようにも思われま

私も精一杯支援していきたいと思いま

すので、今後とも湘南高校サッカー部に熱い声援をいただけますようお願いいたします。

編集後記

昭48年卒 関 佳史

湘南サッカー部のHPをご注目ください。現役情報、OBチーム情報が随時更新されています。OB会の記念誌のテキスト化を進めており、過去2回の記念誌などが、近々アップされる予定です。鈴木先生の「中メール」も継続しています。HPは、浅倉さん(45回)が管理し、大変充実したものになってきました。ありがとうございます。

2009年度は関が主な現役公式戦を観戦しレポートを作成、アドレスがわかる会員100名程度にメールしています。2008年スペイン遠征に同行した生徒が3年生になり、なるべく多く見よう、そして、最後まで見届けようということではじめ、16試合を観戦し報告しました。一部はHPに掲載してあります。今後、関が観戦できるときは、書いて

投稿するようにします。

2010年3月25日から4月4日まで、海外遠征を行う予定です。清水先生が始めたスペイン遠征を小林先生がアレンジし、イングランドでの活動を追加、2ヶ国で試合と研修を行います。今回は、ロンドンで3泊し、チェルシー・ユースとの試合、プレミアリーグを観戦。スペインではビルバオに5泊し、アスレチック・ビルバオ、レアル・ソシエダのユースやビルバオの地元チームとの試合を計画しています。学校主催の行事となり、英語研修などのメニューを組み込み、新たにスタートします。OBは篠塚コーチが同行するほか、坂部さん(44回)がスペインのみ参加する予定です。今回は、外科医の加納さん(43回)が同行しましたが、今回はお医者さんに行ってもうかができませんでした。今後も2年毎に継続する予定であり、OBの中で希望者がいれば参加可能です。

48回の細川周平さんが、著作「遠きにあてつくるもの」(みすず書房)で読売文学賞の「研究・翻訳賞」を受賞しました。細川さんは、京都の国際日本文化センター教授で、本作はブラジル移民100年を迎えた日系人の思いや文化を追う著作です。昨年の会報に寄稿をしてもらいました。同じく、48回の鈴木啓介さんは、ドイツのノーベル賞と呼ばれ

る「フンボルト賞」、「日本化学界賞」を相次いで受賞しました。鈴木さんは東京工業大学教授で、有機化学を専攻。カテキンなど複雑な構造を持つ天然有機化合物の合成を研究しています。近々ご褒美でドイツでの滞在・研究が予定されているそうです。というわけで、今回は、鈴木さんに巻頭原稿をお願いしました。また、湘南高校のキャリア教育に協力し、9月に高校生向けの講演を行いました。

この二人のお祝いの会を3月に開催し、46回から50回まで、およそ20名が参加しました。これに刺激されたのか、6月には49回から51回の20名が集まり、懇親会を開催しました。どちらの会でも卒業以来、初めてお会いする方が数名おり、50歳を過ぎて懐かしい顔を見ることができ、感激しました。還暦の前後で、鈴木先生を囲む会が恒例化していますが、各代と一緒にグラウンドですごした皆さんが集まることは、OB会の活性化にもつながります。こうした動きが盛んになるとを望みます。

〈事務局からのお願い・ご報告〉

～ 100 周年の大イベントへ向けて、会費納入をよろしく～

【平成 21 年度 会計報告】

〈 収 入 〉		〈 支 出 〉	
会 費	1,375,000	現役寄付	400,000
繰越金	215,752	蹴球祭	86,000
利 子	141	筑波大付属戦補助	30,000
計	1,590,893	通信・事務費	191,637
		印刷費	128,100
		会議費	1,470
		繰越金	753,686
		計	1,590,893

22 年度のスペイン遠征と 90 周年記念事業のために繰越金が多くなっています。

【平成 22 年度湘南サッカー部 OB 会予算案】

収入見込み	170 名 (社会人 150 名、学生 20 名)
	$110 \times 10,000 + 40 \times 5,000 + 20 \times 3,000 = 1,360,000$
繰越金	753,686
計	2,113,686 円

支 出	現役寄付及び合宿補助	500,000
	スペイン遠征補助	460,000
	付属定期戦補助	30,000
	90 周年記念事業	530,000
	印刷費	200,000
	通信・事務費	200,000
	蹴球祭	20,000
	予備費	173,686
	計	2,113,686 円

【OB 会寄付金会計報告】

〈 収 入 〉	
繰越金	123,306
寄 付	430,000
利 子	91
計	① 553,397

〈 支 出 〉	
フェスティバル等参加費	11,000
コーチ代	30,000
医薬品代	25,100
トレーニング用品等	68,670
遠征補助 (春・夏)	115,941
人工芝使用料	20,000
手みやげ代	6,090
定期戦	8,627
会場食費等	15,650
計	② 301,078

① - ② 繰越金 252,319

※ 10 月末日までのデータです。

【22 年度会費納入の件】

21 年度は皆様のご協力ありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。社会人の方は、できましたら 2 口以上の寄付をお願いいたします。

- ・社会人 1 口 5,000 円
- ・学 生 1 口 3,000 円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金
口座番号 019166
湘南高校サッカー部 OB 会
武藤俊一 TEL.0466-34-9329

お問い合わせ・ご質問は

【ホームページアドレス】
湘南サッカー OB 会
<http://www.shonan-soccer.com>

【メールアドレス】
関 佳史 (事務局)
seki6644@yahoo.co.jp
武藤俊一 (事務局)
muto@tbc.t-com.ne.jp
横山雅行 (事務局)
m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp

筑波大付属定期戦

期日：2010 年 3 月 20 日 (土)
場所：湘南高校グラウンド

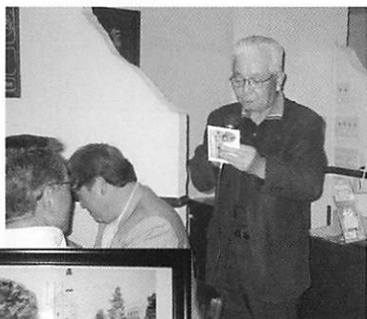
なお、詳細は HP をご覧ください。
所属チームなどを通じて連絡を回します。
※今回、春のハガキ連絡は休止します。

OB会 掲示板

湘南高校サッカー部のHPでは、皆様の近況・情報・ご意見等の投稿を逐次UPしております。会報でも色々ご紹介したいと思しますので、仲間の情報、ご意見等、お気軽にお寄せください。毎年10月中旬に原稿をいただければその年の会報に掲載可能です。

◎ 中さんを囲んで「還暦の会」

11月7日(土)、藤沢駅南口に程近いイタリアレストラン「tando tanto」にて中さんを囲む「還暦の会」が開かれた。この会は今年還暦を迎える43回生が幹事



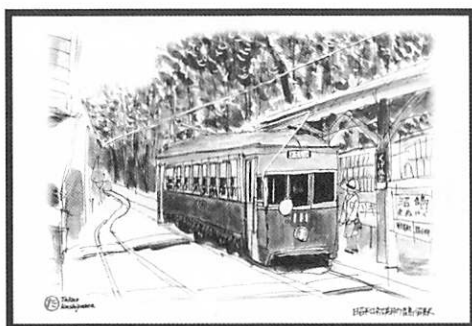
となつて、前後2代に声を掛けて開催、当日は5代にわたり46名が参加、各位のひと口スピーチや雑談、中さんの歌などで2時間がアツと言う間に過ぎてしまった。還暦のお祝いとして43回生全員に、中先生から直筆の「絵」のはがきセットが、その他参加者にはスタンドと絵が贈られた。中さんの「絵」は大好評で湘南サッカーのホームページに毎月書いている「中メール」の中でも12月から掲出予定。

来年は44回生を中心に前後5代が「還暦」を合言葉に更なる参加者をつのりOB会も盛り上げていこうと誓い合った。

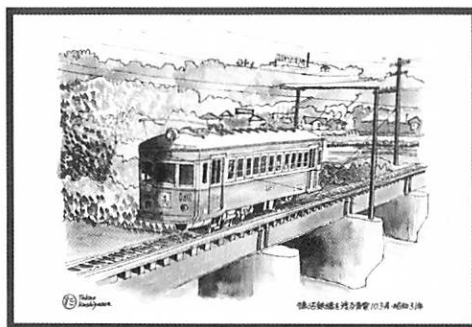
「江ノ電」絵葉書のご紹介

樫山孝男氏(昭42年卒)の作品

◆昨年より作品点数が増えています◆



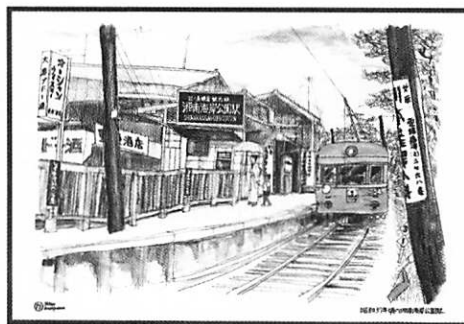
昭和初期の鶴沼駅



鶴沼鉄橋



藤沢駅



湘南海岸公園

※藤沢・江ノ島・鎌倉の各駅売店にて
単品¥160 5点セット¥750

新春10日は

歴史を蹴ろう。歳月を語ろう。

湘南サッカー部が90歳を迎えます。あと10年で1世紀。この長い歴史を一日で蹴りつくすことはできないが、一夜で語りつくすこともできないが、記念すべき新春であることはまちがいない。ぜひぜひお集まりください。

創部90周年記念

蹴球祭 総会 そして 懇親会

★蹴球祭・総会および懇親会のスケジュール★

蹴球祭・総会

期日：2010年1月10日(日)

場所：湘南高校グラウンド、清明会館

10:00～12:00 現役 VS トトカルチョ

12:30～12:45 現役交歓式

12:45～13:30 試合準備

13:30～15:30 40以上 OB紅白戦 2面使用

16:00～17:00 総会(清明会館)

※今回は、昼食を各自済ませて下さい。(弁当は出ません)

※受付はグラウンドの本部にて12時から開始します。

湘南サッカー部創立90周年記念懇親会

心に残る、「特別記念品」をご用意いたしております。

期日：2010年1月10日(日) 開場：18時 懇親会：18時15分～20時

会費：5,000円 ※出欠のご返事は同封のハガキにて、12月22日迄に。

場所：藤沢産業センター7階研修室

〒251-0052 藤沢市藤沢109番地(湘南NDビル) 0466-21-3811

藤沢駅北口徒歩3分藤沢郵便局の隣